

六甲アイランド彫刻 MAP 実践事例・活用案集

いろんなみかたで たのしもう



KOBE CITY
KOISO MEMORIAL
MUSEUM OF ART



神戸市立小磯記念美術館



はじめに —彫刻 MAP とワークシートについて—

六甲アイランドには 40 点をこえる野外彫刻があります。この野外彫刻は神戸市のすすめてきた「ミュージアムシティ神戸」構想の一環として、六甲アイランドの街づくりの中心を担う一部でもありました。

六甲アイランドの豊かな環境は「街の中心は人」という理念のもと整備され、地域の人々とともに成長してまいりました。

2023 年、「第 9 回日展神戸展」が六甲アイランドで開催されるにあたり、当館では賑わい創出の取り組みとして彫刻 MAP・ワークシート・活用案を制作しました。

制作にあたっては、神戸市教育委員会事務局のご協力のもと、神戸市立小・中学校の図工・美術の先生 15 名と 4 名の大学の先生方に専門的な助言をいただきながら研修を重ねました。小磯記念美術館では、2000 年より神戸市の教員方と連携して、さまざまな教材やプログラムの開発を重ねてきました。今回も、子供たちにとって鑑賞の素晴らしさや意義を改めて問い直す、実りある機会となりました。

彫刻 MAP にはたくさんの彫刻作品の中から、小さなお子さんから大人までが楽しめるような作品を選び、ワークシートにはいろいろな見方や楽しみ方ができるようなミッションを設定しました。

今回制作した活用案集では、美術館の行き帰りや日々の授業の導入など様々な場面で彫刻 MAP やワークシートを活用できるように考えました。また、より広く活用いただけるように「自分たちの学校・生徒が、野外の造形物や立体作品のよさやおもしろさを味わうには」という視点からも考えました。さらに、作成委員会の先生方による実践記録や独自に作成されたワークシートも掲載しています。

この活用案集が先生方の日々の取り組みの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、作成にあたり活用案をご提供いただきました先生方の献身的な努力と、関係機関のご理解とご協力に対し、心より感謝申し上げます。

小磯記念美術館 峯松香織（教育普及担当）



彫刻 MAP



ワークシート

#彫刻マップは小磯記念美術館館内に配架しています。

#ワークシートは小磯記念美術館 HP（右二次元コード）よりダウンロードいただけます。



もくじ

1	活用案集のみかた	3
	(現神戸市立伊川谷小学校 教諭/ 神戸市教育委員会事務局 元指導主事 森本 睦)	
2	つながる美術館と学校	4
	(現神戸市立伊川谷小学校 教諭/ 神戸市教育委員会事務局 元指導主事 森本 睦)	
3	彫刻を楽しむ	5
	(兵庫教育大学 教授 村上 裕介)	
4	暮らしの中の身近なモノから—地域の教材とアートを通してつながる—	6
	(武庫川女子大学 非常勤講師 鎌田和見)	
5	野外彫刻に触れる—六甲アイランドの彫刻と地域の子供たちをつなぐ取り組み—	7
	(京都芸術大学 准教授 田中梨枝子)	
6	六甲アイランドの彫刻となが〜い友達になろう	8
	(神戸大学 准教授 勅使河原 君江)	

小学校での活用例

1	さわってたんけん隊 (小学校1年)	9
2	作品と一緒に楽しもう (小学校2年)・実践記録	10
3	ことばのかたち かたちのことば (小学校1・2年)	13
4	み〜つけた! (小学校3年)・実践記録	14
5	くらべてみよう さわってみよう (小学校4年)	16
6	一体、どれだ?立体カード (小学校4年)	17
7	楽しみいろいろ 県立美術館へ行こう のおまけ野外彫刻ツアー	18
8	ポーズのひみつ (小学校3・4年)	19
9	ここに置くとしたら (小学校5・6年)	20

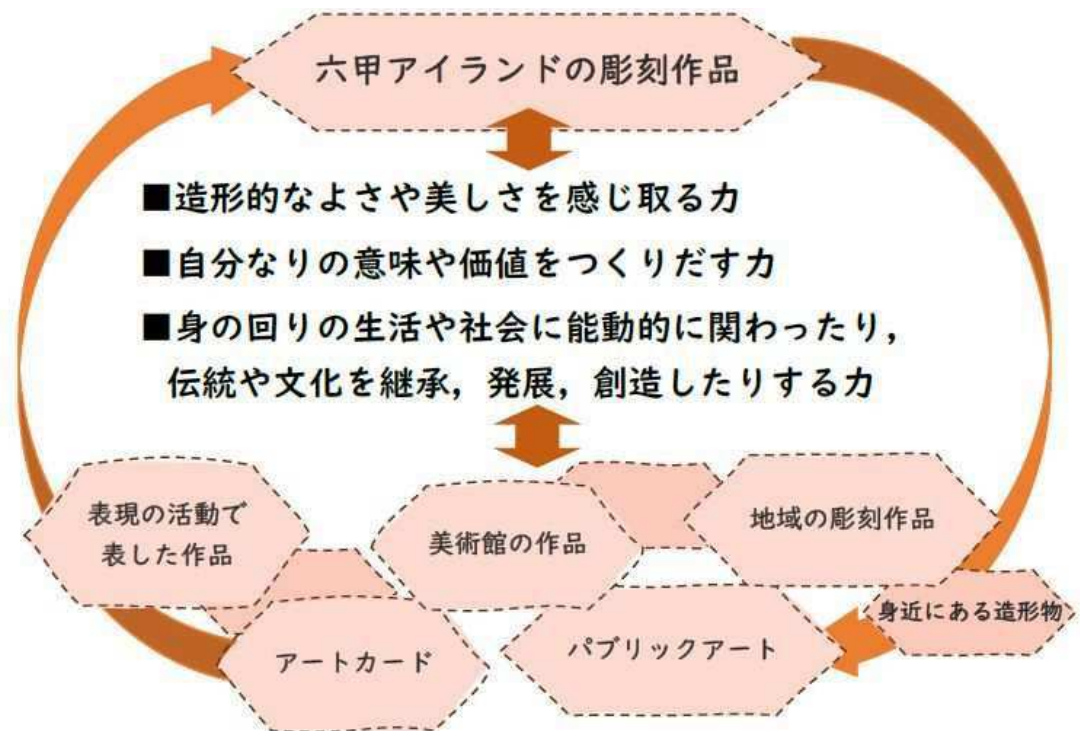
中学校での活用例

10	神戸のまちの彫刻 (中学校1年)・ワークシート	21
11	こんな見方があったんだ (中学校1年)	23
12	彫刻作品を設置しよう (中学校2年)・実践記録	24
13	私たちの町に新たな橋 (中学校2年)	27
14	想いを生み出す場所 (中学校2年)・ワークシート	28
15	じっくり見て、さわって、感じよう (中学校1〜3年)・実践記録	30

六甲アイランド彫刻 MAP 実践事例・活用案集

活用案集のみかた

●鑑賞の活動を通して次のような力の育成を願い、活用案集を作成しました。



●授業や部活動で取り組むきっかけとなるように、展開例を示しました。

主発問やめあてなど

予想される子供の反応やつぶやき

面白さや楽しさ、よさ、美しさ、作者の思いや意図などについて考えることにつながる教師の支援や声掛け

鑑賞する作品が変わっても、「展開」や「発問」を生かすことができる。
表現の活動の、導入に生かすことができる

#鑑賞の活動 #総合的な学習の時間 #地域の教育資源や学習環境 #部活動

つながる美術館と学校

現神戸市立伊川谷小学校 教諭/ 神戸市教育委員会事務局 元指導主事 森本 睦

今回、小磯記念美術館より、「六甲アイランド彫刻 MAP」を制作に関わるすてきな機会をいただきました。小学校・中学校の図画工作科・美術科の先生方が連携し研修やワークショップを重ね、各学校の児童・生徒の様子や、授業の取組みについて意見交換をし、「学びのつながり」を意識する充実した時間になりました。このような取組みを今後も重ね、神戸の子供たちに「心豊かな生活を創造していく力」を育んでいかなければならないと感じています。



また、学習指導要領解説【総則編】には、地域の教育資源や学習環境を教育課程の編成に生かすことの必要性が示されています。六甲アイランドにある彫刻作品や小磯記念美術館の鑑賞活動に関する専門的な経験や知識に支えられた実践は、子供たちの学びをより深めることにつながると感じました。

昨年度、彫刻 MAP を基に向洋中学校の美術部の皆さんが作品の鑑賞をする活動に参加させていただきました。この地域の生徒の皆さんにとっては普段の生活の中で何気なく見ている身近な彫刻作品です。初めはなんとなく見ていた様子でしたが、先生の声掛けや、生徒同士・作品との対話によって、作者の表現の意図や、作品と六甲アイランドの関係などについて自分達なりの考えを深めていく姿を見ることができました。活動後には「六甲アイランドには他にもいっぱい彫刻作品があるんです。」と嬉しそうに話す、自分たちの生活を豊かにしているものに目を向け、暮らしている環境や街を愛おしく感じる生徒の姿も見ることができました。

図画工作科や美術科は作品と子供をつなぐだけでなく、環境や世界、未来などともつなぐものだと考えています。そして、それをつなぐのは、私たち図画工作科・美術科の教員の喜びなのだとして今回改めて感じる事ができました。

この取組みによって作成された、彫刻 MAP・活用案集には、それぞれの作品についての鑑賞の視点や授業の展開が示されています。ぜひ、普段の授業づくりにも生かしていただければと思います。



彫刻を楽しむ

兵庫教育大学 教授 村上裕介

今までに彫刻をじっくりと鑑賞したことはありますか？

(ここは美術館ではありません。だからすぐ目の前に、そして触ることもできます)

さあ彫刻をよく観察することから始めましょう。

(どんな形？どんな素材？どんな色？大きさはどう？そして背伸びをして観てみよう。しゃがんでも観てみよう。後ろに回って観ることもできますね。もちろん触ってもよいです。彫刻は 360° いろいろな方向から観ることができます。あわせて彫刻の周りも彫刻と一緒に観察してみましょう。自分が動くとき彫刻もその背景も変化するのに気がついたでしょう)

彫刻を観ているといろいろなことが浮かんできませんか？

(それはどこかで見たことのある風景や誰かとの会話かもしれません。突然、音楽が聞こえたり、さまざまな体験したことを思い出したり、これから起こりそうな未来が見えたりもしませんか？)

彫刻ってなんだろう？

その想いは彫刻を観た人、ひとりにひとつずつ存在します。それを皆人と一緒に楽しみましょう。

上の文章は、六甲アイランド彫刻散歩 MAP に掲載した「彫刻のたのしみ方」という、子どもたちが彫刻を身近に鑑賞する活動の提案として記しました。彫刻の鑑賞は、図工や美術の授業で多くは見られません。一般的に美術館においても彫刻や立体作品の展覧会が少ないことから「彫刻はよくわからない、難しい」と捉えられていると予想できます。彫刻鑑賞のためのきっかけとして、まずは気軽に接してみることが重要と考え、彫刻の特性を踏まえてわかりやすく提案しました。

これからの時代は、ますます現実と区別がつかないほどの視覚や触覚が得られるようになるに違いありません。そのような状況において実際に存在するものを視覚や触覚等によって認識することが重要であり、感覚、思考、感情、経験等を通じた彫刻鑑賞活動は、これからの子どもたちの成長に、より一層不可欠な要素となると考えます。これらの彫刻鑑賞教材活用案集が、その一助となることを期待します。

暮らしの中の身近なモノから—地域の教材とアートを通してつながる—

武庫川女子大学 非常勤講師 鋤田和見

昨日、彫刻家の友人の個展を見に行った。コンセプトや制作経緯、素材や用具・技法などについて様々に語り合うことができた。やはり本物を前にすると多くの発見や気づきがあり、それらを元にしたこと・考えたことを語り合っていると話がどんどん展開・深化していくので刺激的だった。彫刻の鑑賞はどの位置や視点から鑑賞するのかから始まり注目する造形ポイントなども人それぞれなので作品の見方・考え方は実に多様である。



彫刻は写真で見ても面白くない。作品の裏面やスケール感、存在感や陰影の妙など立体表現の魅力が味わえないからだろう。動画でも同じだ。撮影者の目線・感性での鑑賞を強制されるだけで「私」の視線や主体性は発揮されない。彫刻・立体作品の鑑賞学習を行う場合は、可能な限り身近にあって親しみやすい「実物」を鑑賞させたい。



例えば、私の家の中を見渡すと手に持てる陶芸人形や布製人形、ぬいぐるみ、樹脂やプラスチック製のフィギュアなどがある。他にも石膏像や木製の仮面や木彫りの動物などもある。それらは触れたり持ったりできて重量や触感、温もりや柔らかさなどを感じたり様々な方向から眺めたりすることができるので立体鑑賞の基本的な要素が含まれている。そういう意味では、足元に落ちている石や木切れでも手に持って触感を味わい様々な方向から眺めて何に見えるかをイメージするのも立体鑑賞の対象になると言えるかも知れない。通常そのようにして日常の暮らしの中の物に触れたり身体を動かしたりしながら子供たちは、立体的なものの見方や考え方を自然に身に付けているのだろう。学習においてもそのような身近なモノから導入していくのが無理のない初期段階の立体鑑賞かも知れない。



次の段階は、身近な屋外にある立体・彫刻作品などを対象にしたらいだろう。神戸市は長年「彫刻のある街づくり」を推進してきた。市のホームページには「彫刻の街こうべ」というタイトルで神戸駅から三宮駅周辺、六甲アイランドなどにある多数の彫刻を、画像付きで紹介している。他にも駅前や区役所、図書館や体育館、公園などの公共施設や商業施設などにも設置してある。また神社仏閣はほとんどの地域にあり、そこには日本の伝統彫刻とも言える仏像や地蔵、神像や狛犬などがある。昔から道端にある赤い前掛けをした地蔵や狛犬の阿形吽形の造形性やそれらに込められた思いや願いを考察することもできるだろう。地域によっては昔の偉人の像があるところもある。その他、パブリックアートと言えば野外彫刻が代表格だが、広義に解釈するならばアートっぽい建築や構造物もそれと言えるだろうから、それらを鑑賞とするのもよいだろう。以上のように注意して探せば校区にも意外と彫刻的なものはあ

るのではないだろうか。

しかしどうしても作品が見当たらない学校もあるだろう。そういう場合は、例えば市役所や県庁、神戸港などの校外学習などの下見の際に発達段階に相応しい彫刻をチェックしておいて当日紹介するだけでも興味付けになるだろう。小学生の立体作品の鑑賞目標は、日常に存在する立体的な作品に気づき、それらを見ることの面白さや楽しさを体感すること、それが何よりも大切ではないだろうか。まずは家庭や地域の身近なモノから鑑賞活動を始めたい。



野外彫刻に触れる—六甲アイランドの彫刻と地域の子供たちをつなぐ取り組み—

京都芸術大学 准教授 田中梨枝子

彫刻を鑑賞するとき、子どもたちがとても良い表情をする瞬間があります。それは彫刻に触れる時です。美術館の中では、資料保存や安全対策上の理由から、鑑賞者が彫刻作品に触れる機会は殆どありません。しかし、公園や街角など屋外に設置された彫刻作品は、直に触れることができます。子どもたちは、凹凸を手でなぞったり、滑らかな質感などの感触の違いを確かめたりと、それぞれの触り方で彫刻に親しみます。金属の冷たい感触に声をあげ、思わず笑顔が溢れる子ども達の姿から、彫刻鑑賞の楽しさを教わりました。



私が六甲アイランドにある野外彫刻に関心を持ったのは、神戸ゆかりの美術館に勤務していた 2008 年頃です。六甲アイランドの中心市街地には、約 40 体の彫刻作品があります。しかし、それらを気に留める人はあまり見かけませんでした。個別に作品を見ていくと、作品の多くは、街の景観に馴染むよう、その場所に相応しいものが選ばれていることがわかります。それにも関わらず、街行く人々に殆ど見向きもされない彫刻が、少し気の毒に思えました。

神戸市の野外彫刻について、美術館の教育普及事業や展示で扱おうと思ったのは、市内で野外彫刻の記録や保存の活動を続けている人々との出会いがきっかけです。一人目は市内各所の彫刻作品の撮影をライフワークとしていたカメラマンの加藤成文氏です。2009 年、加藤氏からお借りした写真で六甲アイランドの野外彫刻を紹介する展示を企画しました。この展示にあわせ、私も島内の彫刻を調査し、館内の配布物として六甲アイランドの彫刻マップを作成しました。このことから、神戸市の野外彫刻へより関心を深めました。次に出会ったのは、「彫刻みがき隊あのね会（以下あのね会）」の代表を務める荒岡美知子氏です。あのね会は神戸市内の野外彫刻を清掃する、市民ボランティアグループです。野外彫刻を自分たちの手で守ろうと 2007 年に活動を開始しました。神戸ゆかりの美術館があかね会との共催で、「彫刻みがき隊と行く 野外彫刻クリーン作戦！」を開始したのは 2010 年のことです。美術館イベントとしては地味な内容であり、初回開催時の一般参加者は数組でした。しかしその後、偶然清掃活動を目にした、島内在住者が興味を示し、家族で参加するようになりました。参加した保護者の方から、「自分の街にある彫刻作品を自分たちの手で守ることは大切だ」と、私達の活動に共感するご意見をいただいたことは、今も忘れがたい思い出です。そのほか、島内のインターナショナルスクールの先生が地域社会貢献の活動の一環で清掃に加わりたくいと、生徒を連れて参加されたこともありました。地域に暮らす、あるいは活動する人々が彫刻作品を大切にしようと、共に活動してくださることに喜びを感じました。地域の人々と協働した清掃活動は、あのね会にとっても、活動を継続する上での励みになったようです。「野外彫刻クリーン作戦」は、主催者と参加者双方にとって、彫刻作品を楽しむことのみならず「たくさんの野外彫刻は、私達の暮らしにどのように関わるのか」という問いに、考えを巡らす機会となりました。このような経験から私は、「(一般参加者、市民ボランティア、美術館スタッフなど) 様々な立場の人々が協働する彫刻清掃は、地域で育まれた芸術文化についての学びの機会となる」ことを実感しました。

近年、野外彫刻の保存に関する問題が日本各地で生じています。神戸市も例外ではありません。作品の経年劣化や街の再開発や区画整理事業などの事情により、ある日野外彫刻が街角から消える。それ自体は起こり得ることです。私が危惧するのは、街角から彫刻が消えても誰も気づかない、気にも留めないことです。それはつまり、彫刻作品と共にあった街の景観はもちろんのこと、作者の存在までも軽薄に扱うこととなります。このようなことが起きないようにするには、まず大人が地域に育まれた芸術や文化を大切にしようとする姿を、子ども達に見せることが大切なのではないでしょうか。彫刻 MAP の発行を機に、少しでも多くの方が、神戸市内の野外彫刻に出会い作品に親しむと共に、神戸で育まれた芸術文化について考える機会が増えることを願っています。

六甲アイランド野外彫刻となが〜い友達になろう

神戸大学 准教授 勅使河原君江

この度、神戸市立小磯記念美術館より六甲アイランド彫刻MAP、実践事例・活動案集が発行されました。これらの資料を活用して、これから多くの子供たちが六甲アイランドに設置されている野外彫刻を楽しむ機会が増えていくことでしょう。

作品を鑑賞するに際して、私自身の鑑賞体験についてお話をします。かつて私が子供の時に美術館で展示されている絵画作品の中でも具象画を見るのが好きでした。当時の私には抽象画には何が描かれているかわからなかったうえ、抽象画の様な絵は私にも描けるような簡単な絵(実際は、私には抽象画は描けません、当時の私は描けるような気がしていました)のように思っていました。そして、その



作品にどんな価値があるのかもわからず、好きになれませんでした。しかし、その後大人になって、ある抽象画家の大きな赤い色調の作品を美術館で見る機会がありました。その時に、その大きな赤い色調の作品に囲まれて鑑賞をすると、温かい色調のグラデーションと繊細で柔らかな筆のタッチから画家の息遣いが感じられ、画家が作り上げた柔らかく暖かな世界に包まれるという体感を経験し、抽象画が好きになりました。その経験から、私は実物の作品を見ることの大切さを知るとともに、自分にとってあまり好きではない作品があったとしても、その作品の見え方や感じ方は変わっていくということを体感しました。



これから皆さんは六甲アイランド彫刻MAPを見ながら、いろいろな種類の野外彫刻の鑑賞に挑戦した際に自分が好きな作品とあまり好きではない作品があることに気づくことでしょう。そういった作品を見た時の経験を忘れずにいてください。そして、ぜひ数年後もしくは何十年後に再び、それらの野外彫刻たちに会いに来てください。きっと、数年前に野外彫刻に会った時と違った見方、感じ方が生まれることでしょう。

野外彫刻の良さは、いつ行ってもそこにその彫刻が立って待っていてくれるところにあります。ぜひ、何度も野外彫刻に会いに来てください。そして、それらの彫刻についてもっと知りたいなと思ったり、疑問がうまれたら、調べてみてください。それらの体験が重なることで、皆さんの鑑賞がより深まることを心から応援しています。



1 さわって たんけんたい てでみつけよう

「でこぼこはっけん!かみねんどをおしつけて」の導入

彫刻マップ

彫刻マップ、ワークシート
紙粘土

対象	小学校1年(図工)	つながる学び
時間	1時間	生活科(身の回りの環境や地域)
ねらい	身近にある彫刻作品を手で触れる活動を通して、形や素材、質感の違いを味わい、造形的な面白さと美しさに気付く。	

導入

○目で見た感じと触った感じの違いに気付く。

触ったらどんな感じがするかな?

- ・かたくて、つるつるしていて、きもちいいな。
- ・くると小さなカーブがたくさんあるよ。
- ・ザリザリ、ザラザラな感じ。
- ・ブロンズは熱いけど、石のところはひんやりしているよ。

触る前に、どんな感じがするか予想してみよう!

○言葉で表現することがむずかしい場合オノマトペで感触を表現できることを伝える。

彫刻作品のすてきなところを 手でみつけよう

- ・ここは少しだけくぼんでいるよ。
- ・指の先で触った感じと手のひら全体で触った感じはちょっとだけちがうな。
- ・ここは触るとさらさらしていて、なんだか気持ちいいな。

○目で見て予想した感触と手で触った感じの関係性に気付くように、十分触れる時間をもつ。

展開①

○活動を通して気付いたことを振り返り、みんなで共有する。

今度は学校の中でも探してみよう!

○目をとじて、校内にあるものを触って、自分が面白いと感じるところを探す。

○今日の活動を振り返って、感じたことや考えたことを発表しあう。

- ・触って見たらいろんな感触があることに気が付いたよ。
- ・見た感じと触った感じが同じところと違うところがあって面白かったよ。

○つぎはみつけた感触を紙粘土でコレクションするよ。



展開②

まとめ

ポイント

- ・見て想像していた感触と実際に触ってみた感じの違いや同じところに気付くように声をかける。
- ・同じ部分を触っても、(ゆっくり・早く)(見る・見ない)(手のひら全体・一部)(片手・両手)など触り方で様々な感じ方がすることに気付いた意見が出れば、再度触って感触の違いを共有する。

2 作品と一緒に楽しもう!

彫刻マップ

学習者用端末・カメラ
ワークシート

対象	小学校2年生(図工)	つながる学び
時間	1時間	生活科(地域のことを伝えあう)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みのある地域の作品を鑑賞する活動を通して、造形的な面白さや楽しさを感じ取ったり考えたりして、自分の見方や感じ方を広げる。 ・地域の作品に親しむことで、自分の住んでいる町のよさに気付く。作品と一緒に楽しもう! 	

導入

○作品①「楽園」をいろいろな角度から見て、感じたことや見つけたことを発表し合う。

- ・かばがいるよ!
- ・水の中から顔を出しているのかな?

かばの目線でまわりを見てみよう

○座って、かばの目線で周囲を見るように投げかける。

- ・ジャングルをぼうけんしているみたい!



かばの気持ちになって、周囲がどのように見えているのか想像しても楽しいね。

展開①

○作品②「女の子・二人」の一部になって、感じたことや見つけたことを発表し合う。

二人の間に座ってみて、感じたことを伝え合おう

- ・2人に見つめられている感じがする
- ・3人でおしゃべりしている気分だ!



表情やポーズにも注目して見たら…

展開②

○「 TENTウ虫と…」をいろいろな角度や方向から見たり、触ったりする。

何かがかくれているよ。探してみよう!

- ・かたつむりみたいなのがいる!



まとめ

○今日の活動を振り返って、感じたことや考えたことを発表し合う。

- ・いままでは気にしていなかったけど、実はこんなに町に彫刻があることを知った。
- ・今度自分の家の周りの彫刻もじっくり見てみようかな。



ポイント

- ・しゃがんで下から見たり、裏側から見たり、様々な角度や方向から全体をながめるように声をかける。
- ・他の彫刻も紹介することで、あらためて自分の住んでいる町のよさに目を向けられるようにする。

六アイ彫刻めぐり～見つけよう！感じよう！想像しよう！～

2023年3月14日

神戸市立六甲アイランド小学校 3年生

ねらい

- ・六甲アイランドの彫刻めぐりを通して、身近な彫刻の面白さや、自分たちの町の魅力を再発見する
- ・六甲アイランドの彫刻に対する、地域の方の思いや願いを知る

導入

①自分たちの町と彫刻の歴史や、地域の方の願いについての話を聞く

- ・僕が調べたら、47個見つけたよ！
- ・最初から全部あったんじゃないんだ…
- ・こんなにあるんだ！見たことないのもいっぱいあるな…！
- ・彫刻はいつもきれいだし、大事にされているんだなあ

六甲アイランドには彫刻が40個以上もあるよ！
こんな順番で島に彫刻が飾られていったんだよ！



展開 ①

②校区にある身近な彫刻をめぐりながら、見つけたことや、感じたことを話し合う



- ・かたつむりがある！
- ・化石みたいなものがあるよ！
- ・さわったら虫の形にデコボコしてる！



- ・楽しそうな顔をしているね
- ・僕の家近くにこんなあったんだ！



- ・女の子が魚を持っているよ
- ・地面のデコボコがなみなみになっているから、ここは海かな？
- ・犬とかもいて、みんな楽しそうだね
- ・海は楽しいよって伝えたいのかな？

- ・大きな柱がある！門かな？
- ・人魚もいる！
- ・壊れた時計や、物がたくさんあるね
- ・ゴミとかを海にすてないでってメッセージなのかな…？



- ・たくさん知っている彫刻があるよ！
- ・いつも見ている彫刻の題名はなんだろう…？



- ・これが僕で、小さいの2つが妹と弟！
- ・さわったらザラザラしていておもしろいな！



③校区外にある彫刻を鑑賞し、
見付けたことや、感じたことを話し合う。

お気に入りの角度を見つけよう！

彫刻と一緒に遊んでみよう！



- ・ツルツル光っている所と、
光っていない所があるね
- ・光を活かした作品だなあ
- ・真ん中が回転してドアみたいになりそう！
- ・周りの景色が映っていておもしろいな！
- ・この角度からみるのが1番、
光と空間のハーモニーを感じたよ！



おむすびの具は何かな？



- ・みんなでだるまさんが転んだを
しているのかな？
- ・裏に色んなマークがかいてあるけど
なんだろう？

どんな場面かな？お話を考えよう



- ・真ん中は穴が開いているから梅干し
味のおむすびかな？
- ・じゃあ2つめはエビフライのしっぽだ！

彫刻の気持ちになって
しゃべってみよう！



- ・色々な音色が聞こえてきそう♪
- ・タイルがたくさん使われているよ！
- ・この人はこんな音がしそう♪

- ・女の子とネコの目が合っていて、
おしゃべりしているみたい！
- ・紙ぶくろはおべんとうかな？
- ・いや、おつかいのとちゅうじゃないか

- ・目の所にまつ毛みたいな模様があるから…
「わたしお化粧上手なの～」
- ・日当たりがとってもいい場所だから…
「きょうはいいお天気ですね」

どんな音がするか歌ってみよう♪



地域の方はとっても彫刻を
大切にしてきたんだよ！
彫刻を磨くボランティアも
あるんだよ！

子どものふりかえりから

- ・これからは彫刻を見かけたら、どんな題名かなあって想像しそうです。
- ・よく見ていると、作った人の考えや思いが伝わってきました。
彫刻って人の心を動かすんだなあって思いました。
- ・みんなにも彫刻を大切にねって伝えたいし、わたしも将来、彫刻みがき隊に入りたいです。
- ・普段何気なく見ている彫刻にも、いろいろな工夫がある事に気づくことができ良かったです。
- ・六アイは自然の美術館だと思いました。・他の彫刻も見たいし、30分はじっくりみたいなあ！



3 ことばのかたち かたちのことば

彫刻マップ

彫刻作品の写真

オノマトペカード

はさみ、画用紙、粘土 など

対象	小学校低学年	つながる学び 国語の学習
時間	15分～60分 図工、朝の学習タイム、すき間時間 等	
ねらい	・五感を通して思いついた形や言葉、感じをどんどん表してみる。試しながら活動する中で、新たな形を発見できる楽しさ、つくりかえる面白さを味わう。	

はじめに

- 国語科と連携して様々なオノマトペのカードを子供たちと一緒に考えて作っておく。
スイスイ くるくる、ギザギザ
ドキドキ ふわふわ コロコロ

○資料:指導大判掲示資料
〔ことばとせん〕

いろんなことばとかたちを見つけよう

活動①

- 【せんのぼうけん】
○オノマトペのカードをもとに、まずはそのイメージを手や体であらわしてみる。
○思いついたイメージの線や形、色を選んで画用紙に描いていく。

○直線や曲線、強弱や長短などを活かして表すように伝える。

活動②

- 【にぎにぎ ねんど】
○握ってできた一つの形をいろんな角度から見て、思いついたことをどんどん試していく。
○見立てたことについて形で表していく。作家さんは何を表したのだろう。

○粘土の可塑性を生かして、回転させたり角度を変えたりして見るように伝える。

活動③

- 【はさみのあーと】
○カードをもとに、そのイメージの線や形を思うままに、はさみで切っていく。

○できた形を並べたり、回転させたり、いろいろ試しながら、思いついたことを表すように伝える。

いろんなことばとかたちがあるね

まとめ

- お気に入りのかたちができたら名前をつけたり、みんなの作品をみてまわったり、感想を伝え合ったりする。

○常設展示スペースに展示し、鑑賞活動を行う。

つなげる

- イメージを言葉として結びつけていく。
(表してみる・言語活動の充実をはかる。)
- 生活科における学校探検や植物との触れ合いなども関連させて活動の幅を広げる。

ポイント

子供はイメージと言葉を結びつけることで、自分なりのものの見方や感じ方を確かめ、新たなイメージを広げたり、また共感したりする力を育むことができる。日頃から手指や五感、言語活動を意識した鑑賞の機会を取り入れて、友達と共有する時間をもつようにしたい。

4 み~つけた! これ なあ~んだ?

対象	小学校3年生	つながる学び
時間	30分~1時間	社会(身近な地域・市の環境)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなことを、みて(みつけて) さわって 感じて 考える。 ・友達と話し合い(伝え合い)ながら、作品のよさを味わう。 	

彫刻マップ

彫刻作品の写真
学習者用端末・カメラ
ワークシート

導
入

○みんなが住んでいる六甲アイランドには、実は数多くの彫刻の作品があるんだよ。

作品を見て、さわって 感じたことを伝え合おう!

○ワークシートに沿って、それぞれの作品のミッションを考えたり、友達と話し合ったり伝え合ったりする。

★POINT1 ⑤ ウシロノショーメンダール

Mission さわってみたり 同じポーズをしてみたりしよう!

★POINT2 ④ 道標 おにぎりいつつ

Mission 自分で題名をつけてみよう。

★POINT3 ⑭ 街角の詩

Mission 作品にすわって見てみよう。

★POINT4 ⑲ 吟遊詩人のセレナーデ

Mission どんな曲を演奏しているのかな?

展
開

お気に入りを選ぼう!

○ワークシートに、今日のお気に入りを一つ選んで理由も書く。

・いつも見ていたけど、みんなでいろんな見方をして楽しかった。

・六甲アイランドの街づくりで野外彫刻が大切な役目をしていると聞いてびっくりしたよ。

ま
と
め



○自分たちが住んでいる地域の作品にも目を向け、足を止め、いろんなことを発見し、より豊かな生活につなげたい。

○子供たちの興味に応じて、神戸市の街づくりと野外彫刻の関係や彫刻を守っている地域の人たちについて伝える。

ポイント

- ・彫刻は自分が動くことで形が変わったり、見え方が変わったりするので、自然に能動的で自発的な鑑賞になりやすい。また自分が作品の中に入ることもできるので、大きさを実感することもできる。
- ・野外彫刻は触って鑑賞することもできる触覚の芸術でもある。ザラザラ ツヤツヤ スベスベ ツルツル など、触ることで色々なことを感じるができる。

導入

○みんなが住んでいる六甲アイランドには、実は数多くの彫刻作品があるんだよ。(見に行くことを提案する)
作品を見て、さわって、感じたことを伝え合おう!

○ワークシートに沿って、それぞれの作品の Mission を考えたり、友達と話し合ったりする。

★⑤ウシロノショーメンダール

Mission さわってみたり 同じポーズをしてみたりしよう



さわってみよう。ツルツルのところとザラザラのところがあるよ。

【こどものつぶやき、感想、ワークシートより】
・それぞれ変な顔してポーズをとってるから、みんなでにらめっこしてるみたい。
・後にちがうマークがみんなにあるけど、何のマークかなあ?
・おさるさんみたい!へんてこりんなポーズをしているからへんてこ星人!
・だるまさんがころんだしてるのかなあ?

展開①



同じポーズをとってみたよ!目をかくしているけど、だるまさんがころんだしてるのかなあ?

★⑨吟遊詩人のセレナーデ

Mission どんな曲を演奏しているのかな?



男の人がギター?ラッパ?楽器を持っているよ!
女の人は歌を歌っているみたい。カラフルだから明るい曲を演奏しているのかなあ。

【こどものつぶやき、感想、ワークシートより】

・男の人が家来で女の人が女王様かなあ。
・3人がおしゃれをしているからダンスパーティーにきていて休けいしているみたい。
・何か楽器を持っているけど、ギターかなあ?ラッパみたいにも見えるよ。
・カラフルな作品だから、明るい曲をひいているみたいに見える!春の元気の歌を歌っているみたい!

展開②



カラフルだなあ。ツルツルしているからタイルかな。

まとめ

○ワークシートに今日のお気に入り一つを選んで理由も書く。お気に入りを選ぼう!

- ・「きどあいらくだるま(ウシロノショーメンダール)」
きどあいらくの感じようがくっきりとでていてすごいから。
- ・「ふたりきりのおさんば(街角の詩)」
のらねこと女の子が仲よくなって、さんばをしながらあそんでいそうだから。

活動を終えて

子供たちは普段生活をしている身近なところに、たくさんの彫刻作品があることに驚いていた。野外彫刻は直接作品に触れることができ、作品の中に入ることもできる。見て触って感じ、五感を使って作品の鑑賞を楽しんでいた。今回の活動の経験を活かして、島内の多くの作品にも興味を持ち、地域に愛着をもつきっかけの一つになればと思う。

5 くらべてみよう さわってみよう

—いろいろな見方で作品のひみつを探ろう—

彫刻マップ

中央エリアのワークシート
カメラ

対象	小学校4年生(図工)	つながる学び
時間	1時間	社会の学習(くらしとゴミ)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を見比べたり、触ったりしながら作品の形や手触りを感じとる。 ・作品の形の面白さや、美しさなどについて感じ取り、自分の考え方を広げる。 	

導
入

○彫刻マップを見て、島内にはたくさんの彫刻作品があることを知る。

いろいろな見方で作品のひみつを探ろう

○「この子は何をしているのかな?同じポーズをしてみよう!」と投げかける。

- ◇作品①「海からのメッセージ」
 - ・大切なものを持っているみたい。
 - ・しっぽがぴんとなっているよ。

○「触った感じの違いや気付いたことを伝え合おう、比べてみよう。」

- ◇作品②「海へのメッセージ」
 - ・つるつるもザラザラもあるね。
 - ・お魚みたいな形があるよ。
 - ・こちらにも女の子がいるよ。

○2つの作品を比べて気付いたことを発表し合う。
(共通していること・異なること)

- ・①には門みたいなものがあるよ。
- ・2人は姉妹かな?本当はケンカしてるのかも。
- ・どちらにも波や泡みたいなものが見えるよ。

気付いたことや感じたことを話し合おう

○鑑賞して感じたことや、自分たちが住む地域の作品について考えたことなどを共有する。

- ・触ったり、真似たり、いろいろな見方ができて楽しかった。
- ・同じ海の作品を向いあうように置いてあって、作品と置く場所が考えられていると思った。



作品①「海からのメッセージ」

作品の中にどんなものがあるのかもみつけよう!



作品②「海へのメッセージ」

○子供たちの興味に応じて、神戸市が彫刻などで街の環境づくりに取り組んできたことなども伝える。

展
開

ま
と
め

ポイント

- ・その場で感じたことや、気付いたことを話し合うようにするため十分な時間を取る。
- ・触ってみるだけでなく、自分たちがまねをしたり、話し合ったりしながら作品のよさを感じ取る。
- ・実際に現地に行けない場合は、予め画像(全体、ズーム、部分的など)を用意し、教室でも行うことができる。
→プロジェクターだけではなく、タブレットで画像共有も可能。

6 一体、どれだ？ 立体かるた！

対象	小学校4年生(図工)	つながる学び	彫刻マップ 立体作品のアートカード 学習者用端末 彫刻マップ
時間	1時間	国語の学習、社会(地域の学習)	
ねらい	楽しくかるたをしながら形や特徴立体作品のおもしろさに気付く。		

導入

○立体作品のアートカードを見ながら話をする。

- ・どんな形や色かな。
- ・触ったらどんな感じがするかな。
- ・どんな場所にあるのかな。
- ・どんな人が楽しむのかな。

○教科書の作品や地域の立体作品などのアートカードを利用する。

○いろいろな視点を伝えて、自分なりのおもしろさを見つけるようにする。

立体アートかるたをつくろう！

○彫刻マップから気になった作品を2~3枚選び、特徴や自分なりの活用を考え、ヒントカードに書く。

作品①「春」

- ・うさぎととりが向かい合っている。
- ・題名が「春」だから、春を待っているみたい。
- ・エジプトの神様みたい。
- ・学校の中庭に置くとすてきだね。

○ヒントカードをもとに読み札をつくる。

- ・春を待つ 地上と空の 守り神

○自分の感じた作品の特徴やよさから、自分なりの活用の仕方や展示の仕方を考える。



作品①「春」

展開①

みんなが考えたかるたで大会をしよう！

○4人班でかるたをする。

- ①読み札は教師が読む。
- ②全員がカードを選んだ後に、正解を伝える。

○読み札の言葉から、カードの作者が感じ取った面白さにも気付くように声をかける。

展開②

○取ったカードを班で共有する。

- ・私がお気に入りの部分は…。
- ・作者の…な思いが込められているのだと思うな。
- ・なぜかという…。

まとめ

ポイント

- ・友達に伝わるような特徴と、自分なりのイメージどちらも持てるようにする。
- ・かるたを楽しみながら立体作品を身近に感じられるようにする。

7 楽しみいろいろ

県立美術館へ行こう(番外編)「野外彫刻ツアー」

彫刻マップ

学習者用端末・カメラ
ワークシート など

対象	小学校4年生(希望者)	つながる学び 社会(地域の学習)
時間	午後のプログラム美術館入館前 (15分)	
ねらい	・自ら働きかけて作品を見たり友達の様子を知ったりして、自分の見方や感じ方を広げる。 (美術館の活動のねらい)	

導入

○作品の前で「どんなポーズで写真を撮ろう」と投げかける。

- ◇作品① 元永定正「きいろとぶろう」
・形にあったおさまり方を考えポーズをとる。

どんな場所にどんな作品があるかな?探りに行こう



作品② ヤノベケンジ「Sun Sister」“なぎさ”
作品と同じポーズをとってみる。

展開①

○「この作品なら どんなふう撮ろうかな?」と投げかける。

- ◇作品② ヤノベケンジ「Sun Sister」“なぎさ”

○「ほかにどんな作品があるかな? 撮影の仕方を考えよう。」

- ◇円形劇場
- ◇山口牧生「日の鞍」
- ◇新宮晋「遥かなリズム」



円形劇場



新宮晋「遥かなリズム」
作品に合わせてクルクルと腕を回し始める。

展開②

今から展示室の作品を見に行くよ。
野外彫刻とは違うどんな楽しみ方ができるかな?

まとめ

○気付いたことや感じたことなどをふりかえる。

自ら働きかけて作品を見たり、友達の様子を知ったりして自分の見方や感じ方を広げている。

○神戸市立博物館 — 花と彫刻の道
○こうべゆかりの美術館 — 六甲アイランド野外彫刻
など、校外学習で訪れる施設の付近にある野外作品などを鑑賞することもできる。

取り組みを終えて

子供たちは「美術鑑賞」の枠を越えて、新しく出会う形や色、素材の感じ、とりまく空気を、五感を働かせ体全体で楽しんでいた。この経験は、子供たちの見方や感じ方を広げたり深めたりし、これから出会う野外彫刻のみならず、生活の中の形や色と豊かに関わる資質・能力を育むことにつながると感じた。ささやかなこの活動を価値づけ、今後の活動につなげていくような声掛けをこれからの指導の中に取り入れていきたいと思った。

8 ポーズのひみつ

彫刻マップ

彫刻作品の写真
学習者用端末・カメラ
ワークシート

対象	小学校中学年	つながる学び 体育の学習(表現運動系)
時間	45分 小磯記念美術館への校外学習時 または校内での図工の学習	
ねらい	どのような場面かを考えながら自分の体を使ってポーズを取ることで、作品の特徴や造形的なよさ、作者の表したいことなどを自分なりに捉える。	

導入

○六甲アイランドにはたくさんの野外彫刻があるよ。

今日はいろんな作品を鑑賞してみよう。

作品になりきって、彫刻のひみつをさぐろう!

○何をしているところなのか、ポーズをまねたり、班で話し合ったりして考えるように投げかける。

◇作品①「とおせんぼ」

- ・手と足を大きく広げて、指の先までピンとのびているよ。
- ・同じポーズをとってみたよ。
- ・この子の前にいる人になって、ポーズしてみよう!

◇作品②「女の子・二人」

- ・左側の女の子は足を組んでいるよ。
- ・ふたりとも仲良く見つめ合っているね。
- ・友達かな? 姉妹かな?
- ・何かをお話しているみたい。



作品①「とおせんぼ」

展開①

ポーズや動きで表現したい彫刻をさがしてみよう

○班で表したい彫刻作品を選び、表現する。

- ・いろんな形も体で表現できるんだな。
- ・作品から感じたことを動きでも表してみよう。



作品②「女の子・二人」

展開②

まとめ

○活動を通して、気づいた事ことや感じたことを話し合う。

- ・身近にある作品なのに、みんなでじっくりと鑑賞したら楽しかった。
- ・ポーズをとってみたら、いろんなことに気が付いたよ。
- ・作品に込められた思いや考えが分かって面白かった。

ポイント

- ・「女の子・二人」の作品では、児童自身も作品の一部になったり、人物と同じ目線で見たりして考えるよう促す。
- ・二つの作品の人物の表し方の違いにも触れ、多様な表現を知る機会にもする。

9 ここに置くとしたら(どんな形) これを置くとしたら(どこ)

対象	小学校5・6年生(図工)	つながる学び	彫刻マップ 彫刻作品の写真 学習者用端末・カメラ ワークシート アルミ線・ペンチ
時間	6時間(45分×6)	総合的な学習(町づくりや地域活性化)	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 作品と場所の関係を考えながら、アルミ線を組み合わせて立体に表す。 場所から発想して作品をつくることや、実際に展示して作品の見せ方を考える活動をとおして、展示場所の違いによる効果を味わう。 		

導入

- スライドで「立ち上がれマイライン」の作例、ワイヤーアートの作品を鑑賞し、気づいたことを出し合いながら、線の造形のイメージをつかむ。
- スライドで野外彫刻の作品を鑑賞し、活動のイメージをつかむ。

作品だけでなく、置かれている場所との関係についても考えてみよう。

展開①

学校に展示するなら、どんな形?どこがいい?

- 「ここに置くなら」という場所を決め、そこに合う立体をつくる。(アルミ線・粘土・木)
 - ・池の周りに置くから、ながれるような形にしよう。
 - ・見る人が元気になるような形を考えよう。
- できた作品をその場に設置し、タブレットで撮影する。(ベストショットをスカイメニュー提出箱1へ送る。)
- みんながタブレットで撮影した作品を鑑賞しよう。
 - ・光と影の形と作品が組み合わさって見えて面白いな。
 - ・方向や角度を変えて見たら、いろんな感じがするよ。

場所が決まったら、いろんな方向からタブレットで撮影してみよう!

展開②

もっとイメージにぴったりの場所を探してみよう

- 鑑賞を経て感じたことや考えたことをもとに、さらに撮影する。(印象が変わったものをスカイメニュー提出箱2へ送る。)
- 撮影した作品を見比べ、感じ方の違いについて話し合う。
 - ・作品を置く場所や撮影する角度で見え方や感じ方が違って面白かった。
 - ・いつも見ている場所でも作品を置くことで、場所全体の雰囲気が違って見えた。

もっと作品のイメージにふさわしい場所や逆にイメージを変える場所を探して撮影してみてもいいね。

まとめ

○子供たちの興味に応じて、神戸市が取り組んできた野外彫刻を取り入れた都市環境整備やアート作品を活かした近年のイベントなどについて伝える。

ポイント

- ・「アルミ線」による立体の制作であるが、場所を発想のスタートとすることで、造形遊びのような感覚で思いのままに表す活動を期待する。
- ・「ぴったり」「なじむ」「意外といい」「びっくり」など、選んだ場所への合わせ方の違いを共有する。
- ・つくりながら、何度もその場に足を運び、調整したり、工夫のヒントを得たりしながら、取り組めるように、時間を十分に取る。

10 神戸のまちの彫刻

彫刻マップ

彫刻作品の写真
学習者用端末・カメラ
ワークシート

対象	中学校1年生	つながる学び
時間	2時間	社会・総合的な学習

ねらい ・身近にある彫刻作品にふれ、生活に溶け込む美術に気付き味わう姿をめざしている。

導入

○花と彫刻の道マップを見て、身近にある彫刻作品について確認し鑑賞の計画を立てる。

- ・駅の周りにこんなにも作品があったんだ。
- ・この作品を実際に見てみたい。

彫刻をじっくり見てみよう

○いろんな角度から作品を見て、「どんな感じがするか」について、友達と話したり記録したりしながら鑑賞する。

- ・ふしぎな感じがするな…。
- ・作家さんは何を表したのだろう。
- ・「感じ」の似ている作品を選んで見てみた。



下からのぞきこんで…
ぐるっとまわりこんで…

展開
①

学校に 彫刻を置くとしたら どこにどの彫刻がいいかな？

○学校の周りに彫刻を置くならどこがいいか、なぜその場所、その彫刻なのか考える。

- ・楽しい気分になれる、楽しい感じの彫刻を置きたいな。
- ・中庭など落ち着く場所に、こんな作品があるといいな。
- ・学校に作品があると、どんな変化があるのかな。

街の中に彫刻があると
どんな効果があるのかな

展開
②

○気づいたことや学んだことをふりかえる。

- ・身近なところで、彫刻作品が環境に影響を与えているね。
- ・彫刻の作品があることで、その場所の様子や人の気持ちが変わるのが面白いと感じた。



まとめ

ポイント

- ・彫刻の構造や量感の美しさとともに、見る位置や視点をเปลี่ยนすることで印象が変化する面白さも感じ取る。
- ・自分たちの感じ取った彫刻のよさが、より伝わるような場所や空間について考えることで、自分たちを取り巻く環境について考えるきっかけとする。

令和 年 月 日 ()年()組()番 名前()

神戸のまちの彫刻

①彫刻鑑賞計画

番	タイトル:
番	タイトル:
番	タイトル:


②それぞれの作品で感じたことを残しておこう

番	
番	
番	



いろいろな角度から彫刻を鑑賞してみよう
 下からのぞきこんで…
 ぐるっとまわりこんで…
 どんな感じがするかな？

③葺合中学校のまわりに鑑賞した彫刻を置くとしたら、どこがいいだろう？ その彫刻を選んだ理由・場所の理由もあわせて書いてみよう

? 

まちの中に彫刻があるとどうことが起こるんだろう？

11 こんな見方があったんだ

彫刻マップ

彫刻作品の写真
学習者用端末・カメラ
ワークシート

対象 中学校1年生

つながる学び

時間 1時間

国語

ねらい
・彫刻作品の造形に触れ、感想だけでなく、自分の考察を深めようと意識する。
・作者の作品と意図に触れ、その2つがリンクしている部分を見つける。彫刻作品のメッセージを受信する

導
入

○自分の作品に題名をつけるとき、どんなことを考えるかを問いかける。

- ・表したいことが伝わるように考える。
- ・作りながら考える。
- ・完成した作品を見て直観でつける。

作品に合う題名を考えよう

○自分ならどんな題名にするか考える。

- ・作品のテーマは何か？
- ・感触もヒントにしてみよう。
- ・周りの様子からも考えてみたい。

作者がつけた題名はあるが、それを考えるのではなく、自分が感じたことを題名にするよ。

作品に触れたり、周りの雰囲気味わったりしながら考えよう。

展
開
①

考えた題名によりぴったりの見え方を探そう

○自分が考えた題名がより効果的に伝わる構図を考えて、彫刻作品をタブレットで撮影する。

- ・下から覗き込んで撮影してみよう。
- ・窓ガラスに映り込んだところを撮影してみよう。
- ・作品の影も一緒に撮影したい。
- ・周りの建物と重なるように撮影してみよう。
- ・作品の一部を大写しにしてみよう。

いつもとは違う見方や捉え方にチャレンジしても面白いね。

視点を変えることで自分の考えた題名が変わってもよいよ。

展
開
②

○互いの撮影したものを共有する。

- ・同じ作品でも撮影する視点が違えば、印象が変わる。
- ・周囲の景色と調和しているように見える。
- ・それぞれが考えた題名は違うのに、どこか共通するイメージがある。

作品に対する作者の意図と自分が感じたイメージに共通していた部分はあるかな？

ま
と
め

ポイント

- ・作品を見る視点が変わったことや構図を工夫したことでイメージがどう変わったか考える。
- ・自分が感じた印象と作者の意図や表現の工夫と共通した部分はあるか考える。

12 彫刻作品を設置しよう

彫刻マップ

彫刻作品の写真
学習者用端末・カメラ
ワークシート

対象	中学校2年生	つながる学び
時間	2時間	総合的な学習(地域づくり教育) 社会・道徳・震災学習

ねらい ・鑑賞した作品を自分の住む地域のどこに設置するかを考え、作品と環境の関係について考える。

導
入

○岡本太郎の作品を鑑賞することを通して、パブリックアートについて考える。

- ・意識すると身の回りにいろいろな作品がありそう。
- ・その場所の雰囲気が変わるのかも…

地域のパブリックアートを考えよう

○身の回りにあるパブリックアートをみつけ場所との関係を考える。

- ・人が集まる場所に作品がよくあるね。
- ・公園にある作品は柔らかい印象の物が多かったよ。

なぜ街中に作品があるのだろう

○パブリックアートを設置したい場所について考える。

- ・ここに作品があつたら空間が広がって感じると思う。
- ・のんびりしたくなるのではないかな。

作品と場所って
どうかかわっているのかな
作者の思いは？

六甲アイランドにはなぜたくさんの彫刻作品があるのだろう

○六甲アイランドの作品や場所について考える

- ・街に溶け込むように作品があるね。
- ・たくさんの彫刻のひみつを誰かに聞いてみたいな。

たくさんの作品は見る人に
どんな影響を与えるのかな

○気づいたことや学んだことを共有し、ふりかえる。

- ・身近な場所にパブリックアートがあることに気づいた。
- ・アートはその場所の雰囲気や、見る人の気持ちを変えるのだな。
- ・六甲アイランドにはまだまだ作品がありそう。調べてみたいな。

他にも身の回りの作品に目を
向けると楽しそうだね。

ま
と
め

ポイント

- ・彫刻作品の設置場所へ行き、色々な方向から見たり、手で触れたり、スケッチしたり、計測したりして調べる。
- ・作者の気持ちや見る人の気持ちを考えたり、自分が見てどう思うかを考えたりする。
- ・なぜこの場所に作品を置く必要があるのかを考える。
- ・1人1人の意見をまとめ班の意見としてみんなの前で発表する。

- ・何気なく見ている地域にある美術（パブリックアートやマンホールデザイン）を1つ例にしてなぜその場所にこのアートが置かれているのかを注目し鑑賞する。
- ・夏休み Google Map のストリートビューや実際に遊びに行った先で見つけたパブリックアートやマンホールデザインをワークシートや地図に記入する。
- ・自分だけが知っている地域のパブリックアートやマンホールデザインを見つける。
- ・クラスで1つの大きな灘区の地図をつくる。灘区の地図を4分割して自分たちが見つけた美術をまとめる。
- ・作品から、作者の表現の意図と創造的な工夫などについて考えて、見方や感じ方を深める。



- ・ワークシートに書いた色や形に関連づけた自分の意見を班の友だちと対話し、考えを深める。
- ・造形的な視点を働かせながら、表現の相違点や共通点等に気付いたことをワークシートに記入し、グループで話し合う。他クラスでも出た意見を紹介し考え美意識を高め、見方や感じ方を深める。



- ・安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考え、美術の創造活動の喜びを味わい主体的に美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める。
- ・鷹匠中学校・上野中学校に大きな地図を渡し、知らない美術や感じたこと、気付いたことを書いてもらう。
- ・長峰中学校の生徒が、鷹匠中学校・上野中学校の生徒が書いてくれたワークシートを見て、感じたことや今回の授業の感想を書く。

【こどものつづやき・感想・ワークシートから】

<こどものつづやき>

- ・POPづくりを通してどんな作品が気になった。
- ・これはどこにあって、作者のどういう思いが込められているのかが気になる。
- ・自分が作者になった気持ちになって話すのが楽しかった。

<授業を通して感じたこと…>

- ・灘区にこんなにもアートがあることを知った。
- ・何気なく見ていたものがアートなことに感動をした。
- ・マンホールにも絵が描かれていて興味が湧いた。

<なぜ街にアートがたくさんあるのか…>

- ・災害や震災に関連づけてアートが増えていっている。
- ・来た人に勇気を与えられるものがたくさんある。
- ・可愛さも癒される。

<美術にはどんな効果があるか…>

- ・元気を与える。
- ・癒しの効果。
- ・震災について勇気や希望を与えるもの。
- ・見てみたいものがたくさん。
- ・心が明るくなるもの



活動を終えて

何気なく見ているアート…立ち止まって見ることは今まであまりなかったが夏休みの課題としてじっくりと作品に向き合うことができた。また、POPをつくることにより、見てみたい!この作品はどういう意味があるのかという興味のもつ内容になった。POPをめくると、その作品の説明もあり、自分の考えていた内容と一緒に答え合わせもできることで発想力も磨かれるものになった。対話による授業により考えが深まった。

13 私たちの町に新たな橋 和田岬に架けよう 未来への懸け橋

彫刻マップ

兵庫県の人人口推移のデータ
地域にある橋の写真
学習者用端末・カメラ

対象	中学校2年生	つながる学び
時間	8時間	社会・総合的な学習(地域づくり教育・課題解決・協働)
ねらい	・自分たちの地域をより良くするためのデザインの役割に興味を持ち、自由な発想で提案できることを考え、話し合う。	

導入

○ここ 10 年間で兵庫区の 20~30 代の人口が増加している理由について考える。

- ・こべっこランドがあり子育て世代が生活しやすい。
- ・ノエビアスタジアムなどスポーツ娯楽が楽しめる。
- ・中央市場や大型のショッピングセンターもある。

兵庫区の人口総数は HP で調べることができるよ。



展開 ①

さらに町を盛り上げるためにできることを考えよう

○自分たちの住んでいる町の強み(魅力)に着目して考える。

- ・兵庫津として栄えた。
- ・運河がある。
- ・橋がたくさんかかっている。

地域を結ぶ橋のデザインを考えてみよう

○グループで橋のデザインを考え、模型をつくる。

- ・車と人間の渡るところが分かれて 2 段になっている橋はどうか？
- ・歴史のある町らしいデザインにしたいな。
- ・子供からお年寄りまで安心して渡れる橋にしたいな。
- ・逆に渡れない、渡りづらい橋ってどんな形？どんな橋になるかな



特に橋の多いこの街に渡ってみたいくなる橋があればいいね。

今ある橋をリニューアルしてもいいし、新しい橋を考えてもいいよ。

展開 ②

地域で学ぶ先輩たちに意見を聞いてみよう

○地域の工業高校の生徒に向けて、完成した橋の発表会をする。

実際に実現できるかどうかや、よりよくするためのポイントについてアドバイスを聞こう。

まとめ

ポイント

- ・自分たちの住んでいる町への郷土愛や社会に参画したいという気持ちを大切にす。
- ・町を面白くするための夢を自分たちで描くことが出来るように、グループで自分たちのねらいや思いを十分に話し合う時間を取る。
- ・工業高校の生徒から専門的な視点での評価を受けることで、より実感のある振り返りを目指す。

14 憩いを生み出す場所

彫刻マップ

彫刻作品の写真
学習者用端末・カメラ
ワークシート

対象	中学校2年生(部活動)	つながる学び
時間	1時間	社会・総合的な学習
ねらい	・地域にある彫刻作品とその周囲の環境について考える姿をめざしている	

導
入

身近な場所にあるアートを探しに行こう

○身近な場所にある彫刻作品について考える。

- ・駅の近くに作品がいくつもある。
- ・歩道に沿って並んでいる。

美術館の中だけでなく、私たちの身の回りには造形的なよさや美しさを感じる作品がたくさんあるよ。

○校区周辺にある彫刻作品を鑑賞する。

- ・何を表しているのだろうか？
- ・部分によって触った感じが違う。
- ・見る角度や作品からの距離など、見方を変えると感じ方も変化する。



展
開
①

場所との関係についても考えてみよう

○この場にあることのよさについて考える。

- ・作品があることで、空間が広く感じる。
- ・周囲にあるものが作品の一部のような感じがする。
- ・彫刻作品を毎日目にすることで、生活も楽しくなりそう。

公共の空間に設置されている美術作品はパブリックアートと呼ばれているよ。

○感じたことや考えたことをまとめる。

- ・身近にある作品をいろんな方法で鑑賞して楽しかった。
- ・作品も置く場所によって、印象や見え方が違うのかな。

学校に展示するなら、どの作品？どの場所？

○自分のお気に入りの作品を一つ選び、設置場所を理由とともに考える。

- ・光を反射してきれいだから、池のそばに置いてみたい。
- ・壁のくぼんだ場所に置いて、下から空と一緒に見上げたい。
- ・校門の横に置いて、毎日ハイタッチできるようにしたい。



展
開
②

○気づいたことや学んだことをふりかえる。

身の回りの空間を快適にするために、他にどんな工夫ができるのか考えてみても楽しいね。

ま
と
め

ポイント

- ・様々な視点から鑑賞することで、形や立体感、質感、置かれている空間などに着目し、イメージをとらえる。
- ・作品が置かれている場所や空間が作品に与える影響について自分なりの考えを持ち、構想を練ったり鑑賞したりする。
- ・彫刻と空間の関係に関心を持ち、自分たちが生活する場をより良くしようとする意識を持つ。

憩いを生み出す場所

教科書2・3年下 P48、49



目標 「彫刻作品とその周辺の環境について考える」



第1印象を書こう！

[Empty rounded rectangular box for the first impression]

触れてみて、感じたことは？

[Empty oval-shaped box for tactile impressions]

素材はなんだろう？その理由も考えよう！

[Empty speech bubble box for material questions]

大きさはどのくらい？

[Empty cloud-shaped box for material and size questions]

360度ぐるっと回って見てみよう！

[Empty oval-shaped box for 360-degree view question]

名前をつけるとしたら？

[Empty rounded rectangular box for naming the sculpture]

少し遠くから見てみよう！周囲の風景の中に溶け込んでいるかな？

[Empty rectangular box for distance observation question]

◎彫刻作品が街中にあることで、どんなよいことがありますか？

[Empty rounded rectangular box for benefits of public art]



☆校内に設置するとしたどんな場所がよいですか？理由も書こう！

選んだ作品 () 校内の場所 ()

[Empty rounded rectangular box for school location and reasons]

令和 年 月 日 2年()組()番 名前()

15 じっくり見て、さわって、感じよう

彫刻マップ

彫刻作品の写真
学習者用端末・カメラ
ワークシート

対象	中学校1～3年生(部活動)	つながる学び
時間	1時間	社会・総合的な学習・キャリア教育

- ・彫刻作品の鑑賞を通して、造形的なよさや美しさ、表現の工夫から作者の思いを感じ、味わう。
- ねらい
 - ・友だちの見方や感じ方を聴くことで他者の理解につなげる。
 - ・身近にある彫刻作品に興味・関心をもつ。

導入

○見に行く彫刻作品の写真を見て、身近にある彫刻作品について再確認する

どの辺りにあるのかな？

- ・通学路にあるよね
- ・いつも、何となく 見ているね

○鑑賞する彫刻作品について写真を見せ、どこにあるか見たことがあるかを発問し、身近に作品があるということに目を向けさせる。

じっくり見て、さわって、感じよう

○作品全体と、彫刻マップの発問に応じた表現の工夫や作者の思いを感じる箇所を写真に撮る。

- ・作家さんは何を表したのだろう。
- ・さわった感じが違う。なぜだろう。
- ・この部分が特に面白いからカメラで写しておこう！

いろんな場所から
いろんな方法で見てみよう。

展開①

感じたことを 伝え合おう

○鑑賞した作品の自分なりの見方や感じ方をまとめる。

どこからそう思ったの？
自分なりの見方や感じ方が伝わるように伝えよう。

- ・私がお気に入りの部分は…。
- ・作者の…な思いが込められているのだと思うな。
- ・なぜかというところ…。

○友だちの発表を聞き、自分の感じたことと比較して、他者の理解を深め、いろいろなもの見方・感じ方を気付かせる。

○気付いたことや学んだことを振り返る。

- ・じっくりみると、面白い発見があった。
- ・友達と話をするといろんな考えを知ることができて面白い。
- ・身近にある作品に、いろんな思いが込められていることにあらためて気付いた。

身の回りにある作品に目を向けると楽しそうだね。

まとめ

ポイント

- ・見るだけでなく触ってみるように促したり、360度いろいろな角度から作品を鑑賞したりするよう声を掛ける。
- ・教室で振り返りをする場合は、それぞれが撮影した写真をスライドに映しながら鑑賞会を行う。
- ・彫刻マップに掲載されている以外の彫刻作品もいくつか紹介し、身近に作品があることに、あらためて関心をもたせる。

○作品を鑑賞し、気になったモチーフやお気に入りのモチーフを見つけ、スケッチする。

最初は遠くから、作品の全体の印象をとらえる。

次に近くで鑑賞する。実際に彫刻作品の中に入る、モチーフ越しに周りの風景を見る、などいろいろな場所から作品を鑑賞し、スケッチする。

見て、さわって、質感を確かめる。つるつるなところ、ざらざらなところがある。
様々なモチーフや表現の工夫から、作者の表したいこと、伝えたいことについて考える。

鑑賞する作品やそれ以外の作品について写真を見せて、どこにあるか、見たことがあるかを発問し、身近な作品に目を向けさせる。

いろいろな場所から、いろいろな方法で見よう。

もし、光が当たり、影ができたらどうなるか、周りの環境や天候との関係、屋外彫刻のよさに気付かせる。

○対話をして、感じたことを伝え合う。

作者が表したかったことはどのようなことか。自分が気づいたこと、モチーフが意味することを友だちに話す。また、友だちの考えを聞くことで、新たな発見や作品の見方に気付く。

友だちの考えを聞いて、自分の感じたことと比較して、他者理解を深め、いろいろなものの味方・感じ方を気付かせる。

○作品のよさや美しさ、作者の表現の工夫について、全体の印象、質感の違い、周囲の環境との調和など様々な視点から考えを深める。

○住んでいる人たちや環境との関わりについて考える。

身近にある作品により親しみを持ち、アートがいっぱいの自分たちの住む町のよさに気付かせて、もっと好きになってもらう。誇りを持つ。もっとたくさんの人に知ってもらいたい。そのためには…というところまで考えさせたい。

【感想】

- ・いろいろな考察ができて楽しかった。向かい合うモチーフに共通点があり、それぞれのモチーフの関係を考えるのが楽しかった。
- ・彫刻の中に、いろいろな作者の意図が込められていることに感動した。
- ・彫刻がたてられている位置にも意味があることに気づき、おもしろいなと思った。
- ・離れた彫刻の意味がつながっていると思い、とても興味深かった。いろいろな想像ができたと思った。
- ・人口島なので、彫刻作品があることで、彩りを与えてくれると思う。
- ・彫刻が周りの風景に溶け込んでいていいなと思った。



さいごに —六甲アイランドの彫刻と神戸の街づくり—

1972年六甲アイランドは、ポートアイランドにつぐ第二の海上文化都市として着工されました。

1988年最初の住宅街が完成し、六甲アイランドで最初の入居がウエストコート4番街で始まります。同年、六甲アイランドの野外彫刻第1号となる六崎敏光《陽向》が集合住宅の中央広場に設置されました。

1989年には、「六甲アイランド CITY 彫刻展」が開催され、

入選作品が六甲アイランド島内に配置されました。「六甲アイランド CITY 彫刻展」のテーマは、『『たわむれ』—海の手・六甲に育つ子供たちへの贈り物—』。彫刻が住民の暮らしの中に潤いと安らぎを与え、美しい都市景観に大きな役割を担う、子供たちへの贈り物として企画されました。

六甲アイランドの彫刻設置事業では、中央部のリバーモールに主要な作品群、そしてヨーロッパの街づくりを参考に辻々に彫刻が配置されています。作品の選定にあたっては、「耐久性のある素材（石・ステンレス・ブロンズ）」「安全性に配慮した形状や台座の強度」「抽象・具象などの幅広い作品」「大人から子供まで親しめる」、などの点から吟味されているのが分かります。

その後も毎年続いた野外彫刻の設置は、1995年の阪神淡路大震災以降停滞します。震災で神戸市内の野外彫刻も385体中48体が被災しました。被災した作品は1998年までに修復を終えましたが、以後神戸市による野外彫刻設置作業は減少していきます。六甲アイランドでも1996年、林宏《春》、小林照尚《子供の領分》《ふわふわ》で彫刻設置は終了しました。

今回の実践で、小学生の子供たちに六甲アイランドの彫刻について尋ねると「見たことある」「帰りに座って話をしていた」など、自然に彫刻に親しんできたことが窺える意見がたくさん出ました。また、中学生からは「彫刻の中に、いろいろな作者の意図が込められていることに感動した。」「彫刻がたてられている位置にも意味があることに気付き、おもしろいなと思った。」「人口島なので、彫刻作品があることで、彩りを与えてくれると思う。」「彫刻が周りの風景に溶け込んでいいなと思った。」などの意見が出て、改めて自分たちの住んでいる環境の豊かさや彫刻作品のすばらしさに気付いているようでした。

神戸市・そしてこの六甲アイランドでは、野外彫刻は設置された当初から、街や人に大切に守られ、一緒に街や文化をつくってきた存在。そして最初に計画した人たちの思いと住んでいる人たちの日々の営みが築いてきたものといえます。

どんなに素晴らしい作品も、それを美しいと感じて、大切に作る心のある人たちの存在がなければ、成り立たないでしょう。神戸の街や人が体現してきた素晴らしい宝を、次世代の子供たちに誇りを持って伝えていくことができればと願います。

小磯記念美術館 峯松香織（教育普及担当）



編集 / 彫刻 MAP 活用案集作成委員会 (50音順)

麻生環	(神戸市立福池小学校 教諭)	井上沙耶	(神戸市立春日野小学校 教諭)
上田有紀子	(神戸市立西灘小学校 教諭)	上村柁	(神戸市立六甲アイランド小学校 教諭)
小松美栄子	(神戸市立葺合中学校 教諭)	嶋田聖子	(神戸市立長峰中学校 教諭)
田頭竜志	(神戸市立布引中学校 教諭)	友井司	(神戸市立湊小学校 教諭)
橋本和子	(神戸市立福田小学校 教諭)	橋本美保	(神戸市立ありの台小学校 教諭)
藤田 佐起子	(神戸市立向洋小学校 教諭)	牧野香子	(神戸市立鹿の子台小学校 教諭)
正木晃至	(神戸市立吉田中学校 教諭)	榎田千鶴子	(神戸市立向洋中学校 教諭)
元木隆久	(神戸市立須佐野中学校 教諭)		

編集・協力 / (50音順)

鎌田和見	(武庫川女子大学 非常勤講師)
田中梨枝子	(京都芸術大学 准教授)
勅使河原君江	(神戸大学 准教授)
村上裕介	(兵庫教育大学 教授)
西上靖彦	(神戸市教育委員会事務局 指導主事)
森本 睦	(現神戸市立伊川谷小学校 教諭 / 神戸市教育委員会事務局 元指導主事)

編集・発行 / 神戸市立小磯記念美術館

峯松香織(小磯記念美術館指導主事)	下畝琳華(同学芸補助)
-------------------	-------------

発行日 2024年 5月発行